

2026 年度(令和 8 年度)学校評価自己評価表

城北 中学校区	校番 56	No. (1) 福山市立 久松台小 学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月10日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <p>前年度の学校関係者評価報告書は「十分満足できる」と評価された項目が多かった。中学校校区で連携を深め、いろいろな取組で成果をあげている。各校の目標未達成の取組については現状をしっかりと把握し、達成に向けPDCA サイクルに則り実践する。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>前年度の全国学力学習状況調査の結果では、国語・数学(・理科)の平均正答率が市平均をどの学校でも上回ることができた。ただ、正答率40%未満の生徒は一定数おり、課題である。また、不登校の児童生徒も多い現状がある。</p>	<p>育成する資質・能力</p> <p>主体的に判断する力・課題を発見し解決する力・地域社会と協働し貢献する力</p>
		<p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>・主体的に考え、判断し、自律して行動する児童生徒 ・豊かな心を持ち、お互いを尊重し、協働する児童生徒</p>
		<p>中学校区として統一した取組等</p> <p>・授業研究及び教科等部会の取組 ・家庭学習とメディア利用の取組 ・地域協働と地域交流の取組</p>

育成する資質・能力	主体的に判断する力	課題を発見し解決する力	地域社会と協働し貢献する力
めざす子ども像	自分の考えや経験を基に主体的に判断し、自己決定したり、じっくり内省したりして、自律に向かうことができる。	身の回りから課題を見つけ、自分で考えたり他者と協働したりして解決しようとしている。	地域のよさや課題に目を向け、自分にできることを考え実践している。

III 自校

学校教育目標
自ら考え 正しく判断し 行動する 感性豊かな子

<p>現状</p> <p>〈児童・授業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの研究で「自己選択・自己決定(問い)」「対話と書くこと」「振り返り」に重点を置いた授業づくりをし、PDCA サイクルを意識した指導をすることで、児童の主体性を伸ばすことができている。 地域のよさや課題に着目し、地域の方やお店に協力してもらい、自分たちにできることを実践することができてきている。 福山市学力定着学習調査(昨年度 12 月実施)の「国語・算数」では市平均を上回り、基礎的・基本的な学力はおおむね定着している。しかし、正答率40%未満の児童の割合が、国語・算数ともに6.7%だった。 主体的に授業に取組、基礎的・基本的な学力が定着している児童が増えている一方で、基礎的・基本的な内容の習得ができていない児童もいる。 児童からの問いで授業づくりをしている。しかし、その単元・授業で付けなければならない力に欠かすことのできない問いも設定する必要がある。

研究	テーマ	探究的な学びを通して、問いを更新しながら学びを深める児童の育成 ～問い・対話・振り返りを通して～
	内容等	<p>【研究の柱】</p> <p>①問いを生み出し、学びの起点とする授業づくり ②対話を通して問いを揺さぶり、更新する学び ③振り返りを通して学びを自覚し、次の問いにつなぐ</p> <p>※すべての児童が問いに関わることができるよう、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図る支援を、探究的な学習過程の中に位置付ける。</p>
めざす授業の姿		<p>探究的な学びを通して、問いを更新しながら学びを深める授業</p> <p>主 児童が自己決定したり、じっくり内省したりする授業 教師が、児童の実態からの確かなファシリテート(問いを設定)する授業</p> <p>課 課題に対して自分の考えをもつことができ、他者と考えを伝え合い、協働して解決できる授業</p> <p>地 児童が、地域のよさや課題に目を向け、自分たちにできることを考え実践できる授業</p>

年 目	中期経 営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
5	自ら考 え学ぶ 児童の 育成		継 続	探究的な学 びを通し て、問い を更新し ながら、 学びを深 め、自律 した児童 を育成す るととも に、確か な学力を 定着させ る。	学びの質を 高める話 し方・聞 き方を導 入し、対 話型の授 業を展開 する。ま た、付け たい力の 問いと子 どもから の問いを 把握し、 確かな学 力と探究 的な学び を明確に する。 目標を明 確に持っ たり、問 いを更新 したりす るために 振り返り モデルを 活用した 振り返り を行う。 児童のつ まづきを 把握し、 基礎学力 を定着さ せる。	・児童アン ケート「授 業で学習 した内容 について 、分かった 点や、よ く分から なかった 点を見直 し、次の 学習につ なげること ができて いますか 。」と答 える児童 の割合を 、各学級 85%以上 にする。 「帯タイ ムを活用 して児童 のつまづ きを補充 する」を 100%実 施する。								
3	思いや りのあ る児童 の育成		継 続	自分の良 さに気付 き、自信 をもって 物事に挑 戦できると ともに、 思いやり をもって 相手と関 わることが できる児 童を育成 する。	自分や友 達の良さ に気付き 、伝え合 ったり、 振り返っ たりする 取組を行 う。週に 1回の「な かまタイ ム」、た てわり掃 除等を実 施し、他 者(児童 も教職員 も)と関 わる場を 設定する 。教職員 間で学級 経営につ いて分析 ・交流し 合う研修 を実施す る。	・児童アン ケート「自 分のよさ は、まわ りの人か ら認めら れている と思いま すか。」「 周りの人 の良さを 認め、自 分に取 り入れよ うとする 。」に肯 定的に答 える児童 をそれぞれ 85%以上 にする。								
1	自らの 生活を 律する 児童の 育成			自らの心 身を大切 にし、健 康の保持 ・増進に 向けて行 動すること ができる 児童を育 成する。	・外遊び 推奨日を 設け、運 動習慣を 身に付け る。 ・ミニ保 健やラン チルーム 給食を通 して保健 指導や食 ・メディア リテラシ ーに関する 指導を行 う。	・生活アン ケートで どの項目 においても 健康の保 持・増進 に向けた 行動がで きている と回答す る児童を 85%以上 にする。								

5	地域に貢献する学校	継続	持続可能な社会について探究し、地域に還元できる児童を育成する (SDGs・CS)	生活科の学習や総合的な学習の時間に、地域に根づいた持続可能な社会づくりについて学び、実践をする。	・児童アンケート 低学年「地域のことを知ったり、地域と関わったりすることができた」 高学年「地域とつながったり、地域に貢献したりすることができた」に対する肯定的割合を85%以上にする。														
---	-----------	----	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。